

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

グループ・ビジョン

世界第一級のエンジニアリング企業グループとして、顧客にとって最も信頼できる継続的なパートナーとなる。

連結受注高
170,000百万円

完成工事高
200,000百万円

営業利益
1,500百万円

親会社株主帰属純利益
5,000百万円

② 中長期の経営戦略

1. EPC強靱化

DXoT推進によりプロジェクト・設計・調達・工事の各領域でDX適用を拡大し、生産性向上と工期短縮を実現。7拠点での案件自律遂行力を強化。

3. カーボンニュートラル事業

燃料アンモニア・グリーンアンモニア・CCS・CO2資源化・地熱・SAFの複数領域でFEED/FS等を推進し、脱炭素化ニーズに対応。

2. 新技術・事業開拓

カーボンニュートラル対応技術の開発、バイオマス発電12件の順次完工、インドネシアでの地熱発電継続受注、廃棄物リサイクル技術開発を推進。

4. FPSO事業拡大

2023年以降10年の黄金期における石油メジャー・国営石油会社の旺盛な投資需要に対応。OFSとの合併によるブラジル・ガイアナ等での案件受注を加速。

③ 対処すべき課題

① 技術革新の継続

- ・ 自社開発技術と他社提携技術の優位性保持
- ・ 市場競争力のある事業展開と絶え間ない技術向上

② 人材育成と確保

- ・ 優秀な人材の育成と確保における適切な資本投下
- ・ 多彩な人材がいきいきと働ける環境と制度の充実

③ 事業ポートフォリオ転換

- ・ EPC案件受注や個別案件の成否による業績ブレの解消
- ・ 既存事業強化と新規事業開拓による収益構造の転換・多様化
- ・ 安定的な収益基盤と持続的成長の実現

面接で使えるポイント

- ・ グループ・ビジョン「Global Leading Engineering Partner」の実現に向け…
- ・ インドネシアのグリーンアンモニア製造事業、ブラジル・ガイアナのFPSO案件など…
- ・ DXoT推進による生産性向上、7つのEPC拠点の自律強化、2025年1月発足のプロジェクト管理本部による体質強化で…

証券コード 6330

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）

－（推移を描ける期数の開示がありません）

要するに

総合エンジニアリング企業として産業用プラントの
開発・設計・建設を手掛ける上場企業

主力事業・セグメント

・建設業（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）

・営業利益率166.7%と高い収益性
・東証プライム市場上場

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高

▲114億円

営業利益率

166.7%

財務健康度

39点 / 100点

将来性 雨 / 就活偏差値 50.8（当サイト算出の参考指標）

平均年収

920万円

建設業内 42位/140社

平均年齢

42.4歳

建設業内 86位/140社

平均勤続

15.3年

建設業内 82位/140社

女性管理職

5.6%

建設業内 20位/112社

男性育休

77.4%

建設業内 52位/104社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース一言

参考: 東洋エンジニアリング[6330]：資本準備金の額の減少および

